



小川小 道徳だより

第5号 平成27年2月6日発行

道徳の時間から①

週1時間の道徳の時間、副読本（保護者の皆様に年度初めに購入していただいている資料が掲載されている冊子）や「私たちの道徳」（文部科学省から配布されている資料等が掲載されたり、書き込みをしたりすることができる資料）を使って授業を行っています。指導内容に沿った価値を追求するために、資料を通して学んでいきます。

今回は、3年生で授業を行った読み物資料を紹介します。（資料は、裏面にあります。ごらんください。）



社会における情報化の進展に伴い、容易に情報の収集や発信ができるようになりました。しかし、そこには情報社会の影の部分も同時に広がっています。誘惑に負け、安易にインターネット等で情報の受け渡しを行うことで、多くの人に迷惑をかけたり自分が被害にあったりする危険性が潜んでいます。この資料では、学年に応じた情報モラルに配慮し、「自分自身の行動についてよく考え、節度ある生活をしていこうとする態度を育てる」ことをねらいとしています。

インターネットで割引券の画面を見つけた主人公の「あつし」はどのようなことを考えたか発表し合い、あつしの心の迷いに共感させました。「自分だったら見てしまうかもしれない」「1回だけならクリックしてしまうかも」「見たいけど、しかられそう」「一回クリックしたらもどれなくなってしまうそうで怖い」「お母さんとの約束があるから見ない」などの意見もありました。

インターネットなどから情報を簡単に手に入れられるこの時代、年齢に応じた情報モラルも考えていかなければならないと思います。パソコンや携帯電話をはじめ、インターネットは「楽しい」というイメージが先行してしまいがちですが、それに合わせて自分でよく考えて行動することの必要さを学校や家庭で教えてあげる必要があると思います。家庭でのテレビやゲームの約束に加え、パソコンや携帯電話・ゲーム機でのインターネットを使うときの家庭での約束も再確認できると良いと思います。